

チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	20-13-1	市民団体等へのシビックテックの浸透	金沢市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	地域を支える市民団体の活動に IT を！		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	シビックテックサミットカナザワ 2021 運営チーム		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	8 名		
代表者（公開）	福島 健一郎		
メンバー（公開）	雄谷 峰志 白浜 加奈 おばた みなこ 辻嵐 飛鳥 坂本 龍斗 松浦 伸樹 西澤		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

- 応募の際は、ファイル名を COG2021_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 ○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいても結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

これまで金沢市においては、一般社団法人コード・フォー・カナザワが中心に市民と行政が協働をしながらシビックテックの活動と啓蒙などをおこなってきた。そのおかげで「自らが行動を起こし、テクノロジーも活用しながら地域課題を解決して、ありたい社会を創りたい」という市民は増えている。

しかし、それはまだまだ一般市民にまで広く浸透はしているとは言い難い。シビックテックのためにも一部の市民ではなく、地域に暮らす多様な市民が関わっていくことが大事であるため、市民に広くシビックテックが浸透していないことは大きな課題である。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

金沢市では年に一回、シビックテックの啓蒙を目的とした大きなイベント「シビックテックサミットカナザワ」が主催・開催されている。このシビックテックサミットカナザワは市内とその近隣の人を対象に2017年からこれまで4回開催され、シビックテックや社会課題と関係する有識者の方たちも講師としてお招きして、県内外問わず多くの方々に参加していただいていた。

また、講演を聞くだけでなく、多くのワークショップなども通してシビックテックを体験していくような場も設けられていた。

シビックテックサミット 2017（一年目）

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/22050/civictechsummit/summit2017.html>

ただ、参加者としてはシビックテックを実践しているプレイヤーやシビックテックに関心がもともと高い層の参加が多いように見られ、シビックテックに関心がない層へシビックテックを啓蒙していくことは難しかった。

そこで、2021年度のシビックテックサミットでは、以下のような取り組みをおこない、シビックテックに関心がない市民層にまで周知し、広く参加してもらうことで、今回の課題解決を達成する。

「何を」

金沢市で活動する地域団体（町会など）と市民団体（NPOなど）をメインターゲットにしたイベントとする。そのためにシビックテックという言葉は前面に出すのではなく、「市民活動にICTを活用する方法をみんなで学ぶ」というテーマを設定する。具体的には、地域の課題を解決しようと活動する団体さんのために役立つような講座とワークショップを一日を通しておこない、彼らが帰るときはICTを少し活用すれば自分たちの課題を解決できるという自信を持てるようにしていきたい。

「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」

一般社団法人コード・フォー・カナザワが呼びかけて作るシビックテックサミット2021（CTS2021）運営チームが金沢市の市民協働推進課と連携して実現していく。

時期は例年通り、秋頃に設定し、場所は過去利用していたインキュベーション施設の性格が強い「ITビジネスプラザ

武蔵」をやめ、廃校となった野町小学校を改修して作られた「金沢みらいのまち創造館」を利用する。小学校という作りや地域住民の中心に位置するという立地を活かして、市民協働という側面をアピールする。

そして、運営チームそのものも実際に地域団体や市民活動に根ざして活動しているメンバーに参加していただき、これまでのようなシビックテックプレイヤー中心の運営ではなく、地域で活動する様々な主体で構成したチームが運営するスタイルをとっていく。そうすることで、地域団体や市民団体が求めることを理解し、周知も彼ら自身で拡げることができると考えている。

また、金沢では学生自身も活発に地域活動をおこなっている点から、学生の参加も呼びかけていく。

多様な主体が集まって運営していくことから全員が一度に集まって会議をおこなう形式は難しいと考え（自由時間がそれぞれ違ったり、移動に制限があるメンバーがいるなど考慮して）、zoom などのリアルタイム型のオンライン会議と slack を通して議論する非リアルタイム型の両方を使って、シビックテックサミット 2021 の運営を進めていくことにする。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

金沢市市民協働推進課からいただいた「シビックテックサミットの開催について」というシビックテックサミットの状況をレポート（非公開）によると、2017 年度から 2020 年度まで毎年少しずつ参加人数は増加している。2017 年度は午前と午後の参加者数が延べ 140 名だったのに対し、2020 年度は 206 名にまで増えた。

その参加者層がどういう層かは属性をとっていないことから分からないが、開催されている講座はシビックテックやオープンデータ、ICT、SDGs という話を中心となり、そうした傾向に関心がある方々の参加が多いのでは推測される。

そのため、シビックテックやその周辺の技術を全く知らない人たちからすれば、その内容に関心が出ることはほぼないと考えられ、参加の足が遠のくのではないかと推測できる。

また、COG2021 サイトで公開されている「金沢市町会等地域団体・市民活動団体・学生団体ポータルサイト」の情報によると金沢市の町会数は 1345、各種団体の数は 313 にものぼり、それ以外の市民団体も数多く存在すると考えられる。

これらの活動については COG2021 サイトで公開されている「市民協働推進事業」に書かれている事業が支援をおこなっている。

そうしたことから、金沢においてシビックテックコミュニティとは違う多くの地域団体と市民団体が地域の課題を解決するべく活動していることが分かる。

両者のことから、数多く存在する地域団体や市民団体の方々がシビックテックサミットに参加していないことが分かることから、シビックテックサミットのテーマと内容からシビックテック色を抜き、地域で活動する市民が関心を持つテーマでおこなうというアイデアが必要だと考えた。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

実現する主体：

一般社団法人コード・フォー・カナザワ シビックテックサミット 2021 運営チームと金沢市市民協働推進課

実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

運営チームの要となるヒトは一般社団法人コード・フォー・カナザワが彼らの持つコミュニティグループと外部への発信でスタッフを呼びかけて集めていく。その際に、シビックテック関係者で集めるのではなく、地域活動や市民活動に根ざしている人たちに積極的に参加を呼びかけていく。さらに、金沢市市民協働推進課が持つネットワークも通じて募集していく。想定人数は 10 名程度。

モノはそう大きな資源を必要としないが、イベント当日の付箋紙や模造紙などの文房具品は市民協働推進課の方で調達、シビックテックサミットのバナーロールやポスターなどは毎年使っているものを流用する。

カネは金沢市のシビックテックサミット運営費用をもとに、運営に必要な経費を賄う。

実現にいたる時間軸を含むプロセス

シビックテックサミット 2021 は 11 月 13 日（土）開催という予定が既に決まっている。

運営チームメンバー呼びかけ：6 月

運営チーム結成：7 月

運営会議：7 月～11 月（月 2 回程度、隔週）

コンテンツ内容決定：7 月～8 月末

登壇者調整：9 月～9 月末までに

広報：9 月～11 月

オペレーション内容決定：9 月～11 月

本番：11 月 13 日（土）